

# 14旅団等 新たな体制へ編成完結



方面総監統率方針  
**任務の完遂**

発行所

陸上自衛隊  
中部方面総監部広報室  
〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1  
電話：072(782)0001

## 真新しい制服に身を包み

### 約2,200名が入隊

第14旅団（旅団長 小和瀬陸将補）は、平成30年3月27日（火）、4月1日（日）の両日、善通寺駐屯地において機動旅団化の編成完結式及び改編行事を実施した。また、中部方面航空隊（隊長 森1佐）は、30年3月27日（火）の美保分屯地の開設及び第3飛行隊の新編に伴い、4月7日（土）美保分屯地において編成完結行事を実施した。

（特集Ⅱ3・4面）

### 第14旅団 機動旅団へ改編

4月1日（日）善通寺駐屯地で行われた改編行事には、小和瀬旅団長以下、隊員約1,100名が参加。大野防衛大臣政務官から、「我が国を取り巻く安全保障は一層厳しくなっている。旅団長をはじめとする各部隊指揮官の指揮統制の下、任務に邁進することを期待する」と訓示を受けた。



第14旅団改編行事

### 方面ヘリ隊 第3飛行隊新編

4月7日（土）美保分屯地で行われた編成完結行事には、国会議員、県知事、市長、市議会議員、関係諸団体の方々約200名を招待。行事開催にあたり編成管理官である岸川総監は、「地域と共に歩み、いかなる事態にも即応できるよう職務に邁進してほしい」と訓示を述べた。



中部方面航空隊改編行事

4月上旬、方面区内の各駐屯地において、来賓・家族等が見守る中、一般曹候補生及び自衛官候補生の入隊式が行われた。総勢約2,200名の入隊者が、27年ぶりに新調された新制服を身にまとい、緊張した面持ちで式に参加した。

式では、入隊申告及び職務の宣誓に続き、それぞれの教育隊長等から訓示を受けた。自衛官（候補生）としての第一歩を踏み出した。それぞれの教育隊において、同期とともに切磋琢磨し、約3カ月の基礎訓練を各駐屯地で受ける。

第3特科隊（姫路駐屯地）



宣誓（新制服）



中岡家 親子



武器貸与式

# 射場、機動路及び機動展開地等整備

## 演習場春季集中整備

第4施設団（団長 小谷陸将補）は、平成30年4月10日（火）から19日（木）までの間、あいば野演習場及び日本原演習場において「平成30年度方面隊統制演習場春季集中整備」を実施した。

演習場整備は、訓練基盤の維持・拡充を図ることを目的として年に2回実施。至近距離射撃場整備（あいば野演習場）においては、予想される雨の影響を考慮して連日夜間作業で停弾提の木柵及び法面の整備を実施し、所命の時期までの任務完了に向け一致団結し作業を実施した。



至近距離射撃場整備



機動展開地積整備

今回の演習場整備では、各射場、機動路及び機動展開地積等整備を重視し、33件（機能向上整備8件、機能維持整備22件、予防整備3件）の整備作業を、人員約2,350名、車両等約800両で実施。本訓練に参加した第10特科連隊第2大隊第3中隊大石翔平士長（23）は、「主に草刈機、チェーンソーを使用した連絡道周辺の除草及び枯れ木の除去を実施した。集中整備作業間、班内の士気を落とすことなく最後まで任務を完遂できて良かった」と述べた。

# 方面隊ナンバーワン戦士決定

中部方面隊は、平成30年4月18日（水）、平成29年度方面隊ナンバーワン戦士を決定。ナンバーワン戦士とは、自衛官として任務を遂行するために必要な識能・技能に關し、中部方面隊で最も優秀な成績を獲得した隊員のことをいう。対象期間は、平成29年4月から30年3月までの1年間で、拳銃射撃、小銃射撃（64式・89式）体力検定、語学力（英語）の区分で選考した。

**9mm拳銃射撃 第1位**  
第13旅団 第8普通科連隊  
2曹 石倉 直樹

**小銃射撃（64式：陸曹）第1位**  
中部方面通信群 第104基地システム通信大隊 3曹 岡本 英治

**小銃射撃（89式：陸士）第1位**  
第3師団 第36普通科連隊  
士長 陶 聡真

**小銃射撃（89式：陸曹）第1位**  
第13旅団 第13後方支援隊  
2曹 村上 雅史

**体力検定（男子：陸士）第1位**  
中部方面通信群 第104指揮所通信大隊 士長 櫻田 卓也

**体力検定（男子：陸曹）第1位**  
第3師団 第3偵察隊  
2曹 政木 大輔

**体力検定（女子：陸士）第1位**  
第4施設団 第6施設群本部管理中隊 士長 舟橋 周可

**体力検定（女子：陸曹）第1位**  
中部方面後方支援隊 第302高射直接支援中隊 3曹 河本 知恵

**TOEIC（陸士）第1位**  
第3師団 第7普通科連隊  
士長 石光 義隆

**TOEIC（陸曹）第1位**  
中部方面通信群 第303中枢交換通信中隊 3曹 藤川 拓也

## 地震発生に伴う 部隊派遣

災害派遣

### 島根県西部

平成30年4月9日（月）午前5時50分、島根県知事より第13偵察隊長に対する島根県西部を震源とする地震に伴う災害派遣要請を受け、中部方面隊は、第13偵察隊及び第8普通科連隊、人員延べ約130名、車両延べ約60両をもって給水支援を実施。4月11日（水）午後5時、島根県知事からの撤収要請をもって同活動を終了した。

## 林野火災

災害派遣

### 島根県隠岐郡隠岐の島町

平成30年3月29日（木）午前6時45分、島根県知事より第13偵察隊長に対する林野火災に伴う災害派遣要請を受け、中部方面隊は、第13偵察隊、第13航空隊及び中部方面航空隊（美保）、人員延べ約120名、車両延べ約10両、航空機延べ約10機をもって消火活動を実施。3月30日（金）午前7時15分、島根県知事からの撤収要請をもって同活動を終了した。

## 国際緊急援助隊の待機に向けた準備訓練開始

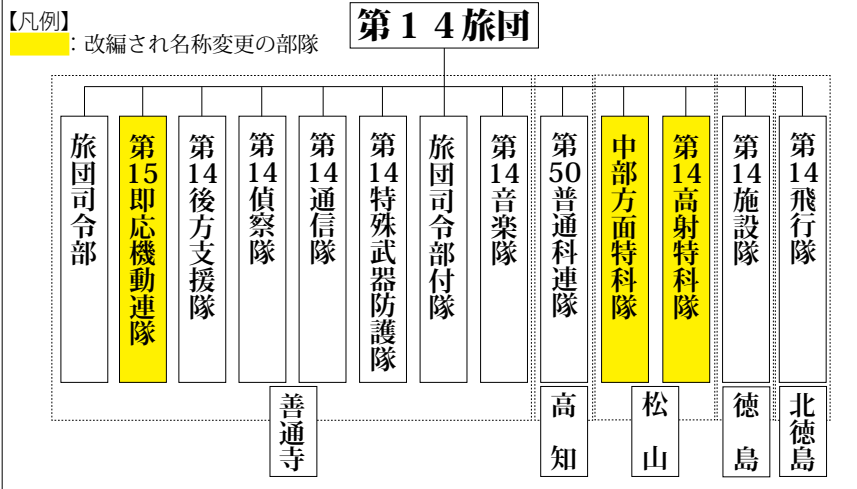
第10師団（師団長 甲斐陸将）は、平成30年7月15日（日）から約半年間、国際緊急援助隊派遣の待機を担任することから、その準備に万全を期すため、春日井駐屯地において派遣隊員に対する訓練を開始した。

4月5日（木）及び6日（金）の両日に導入訓練を実施するとともに、4月16日（月）から20日（金）までの間、第1回機能別訓練を実施した。

国際緊急援助隊は、第10後方支援隊が基幹部隊となり、師団の様々な部隊及び方面隊の各部隊からの支援を得て混成部隊を編成する。今後は、機能別訓練を重ねるとともに、6月下旬に総合訓練を行い、出動待機態勢の準備を完了する。

# あらゆる事態に即動必遂

## 第14旅団の編成



### 体制整備の方向性

あらゆる事態に迅速・段階的に機動展開し、実効的に抑止・対処



機動戦闘車を装備した即応機動連隊の新編等により、機動性を高めた機動旅団へ改編

### 16式機動戦闘車の主要な能力

#### 火力

- 105mm 砲による走行間射撃
- ネットワークによるチーム戦闘

#### 機動力

- 高い機動力と必要な火力・防護力により構成



#### 空輸性

空自輸送機での空輸



C-2

#### 防護力

- 機動力とのバランスを考慮した付加装甲による防護性の強化

#### 戦場機動 (路上・路外)

- 路上を活用した迅速な機動
- 4軸8輪による安定した機動

## 隊旗授与式



第14高射特科隊



中部方面特科隊



第15即応機動連隊

### 第14旅団長着任の辞(要旨)

〈改編によせて〉

全国に先駆けて編成された第15即応機動連隊をはじめとする隷下各部隊の雄姿に接し、頼もしく感じている。

この四国4県の防衛・警備、災害派遣を担い、新たに「即応機動する陸上防衛力」実現のための中核を担う機動旅団の指揮を執ることは、身に余る光栄であり、その責務の重さに身の引き締まる思いである。

新生第14旅団に与えられた任務を果たすべく、統率方針として「即動必遂」を掲げ、隊務を運営していく所存である。自分の考える「即動必遂」とは、「あらゆる事態の生起、あるいは与えられた任務に際し、即座に初動対応し、そして迅速・的確に行動し、持続力を発揮して必ず任務を完遂する」ということであり、「即動必遂」しうる強靱な部隊を育成していく覚悟である。

統率方針を踏まえ、隷下部隊、隊員には、「誇りを持って」「心身を鍛えよ」「力を結集せよ」の3点を要望し、第14旅団を早期に戦力化すべく、旅団の先頭に立ち、諸官とともに任務に邁進する所存である。

第14旅団長

陸将補 小和瀬 一



改編行事

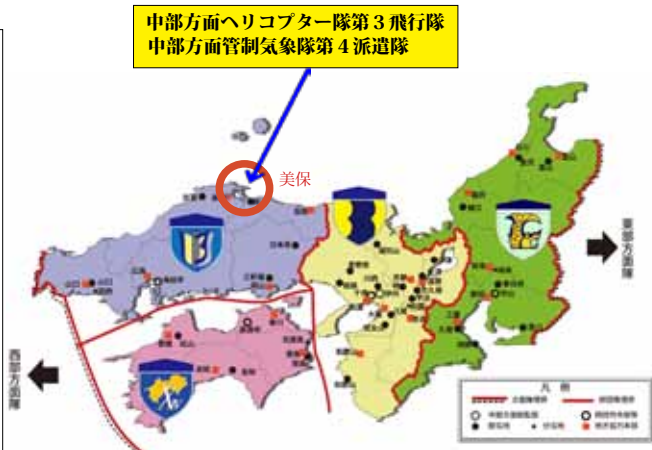
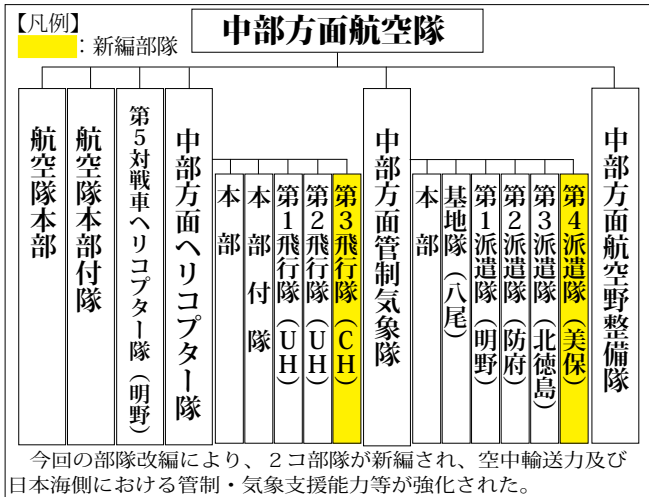


16式機動戦闘車 (新装備品)

# 日本海側の空中輸送力を強化

陸上自衛隊美保分屯地

## 中部方面航空隊の編成



中部方面ヘリコプター隊第3飛行隊は、輸送ヘリコプター（CH-47）を運用し、広範囲にわたる各種任務の対応能力を大幅に強化させるとともに、山林火災、緊急患者空輸、人員・救援物資空輸等の災害派遣活動においても、より迅速かつ大規模な輸送が可能となった。

【性能等】  
 搭乗人員：操縦士等3名+55名  
 全長：30.1m  
 航続距離：約540km  
 最大速度：270km/h



空中機動、人員・物資輸送等

中部方面管制気象隊第4派遣隊は、美保分屯地における飛行の統制・調整及び航空気象支援業務を行い、航空機の安全な運航に寄与するほか、各種の飛行管理業務を行う。



JTPN-P20 (精測進入レーダー)



JMMQ-M7-B (気象情報処理装置)

## 隊旗授与式



美保分屯地新庁舎

方面ヘリ隊第3飛行隊長兼ねて美保分屯地司令訓示(要旨)

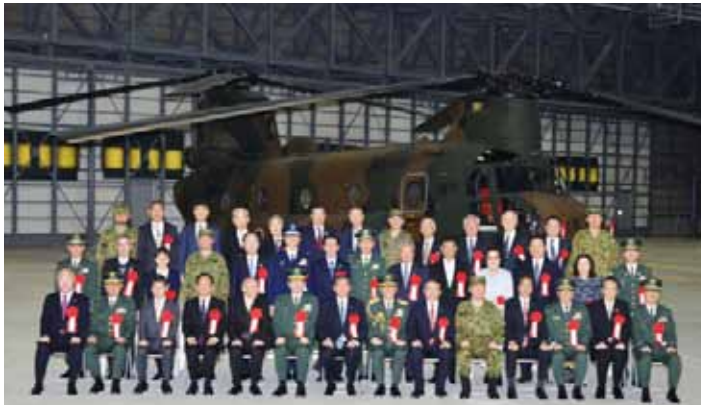
我が国を取り巻く安全保障環境は、中国、北朝鮮、ロシア情勢等の様々な課題や不安定要因の中、一層複雑化し、好転の兆しが見られず、冷戦終結以降も厳しい状況と認識しているところである。

また、国内においては、東北地方太平洋沖地震以降も、地震や火山活動が継続して生起している状況であり、中部方面隊においても甚大な被害が予想される南海トラフ地震や不期に発生する山林火災等への迅速な対応が責務である。

このような中において、CH-47輸送ヘリコプターを配備する美保分屯地が開設されたことは、長大な日本海側の沿岸地域における各種事態への即応、太平洋側を含めた方面隊全域にわたる災害派遣活動への対応等、まさに「即応機動する陸上防衛力」の具現であるものと認識しているところである。

今後は、航空自衛隊美保基地及び陸上自衛隊米子駐屯地同様に、地域・国民から信頼される分屯地となれるよう、日々精進して参る所存である。

方面ヘリ隊第3飛行隊長  
2等陸佐 姫野 貴信



式典参加者



方面ヘリ隊第3飛行隊

# 統幕長 出雲・美保を視察

中部方面隊は、平成30年4月16日(月)美保分屯地(第3飛行隊長兼司令 姫野2佐)及び出雲駐屯地(第13偵察隊長兼司令 中谷2佐)において、河野統合幕僚長の視察を受けた。

美保分屯地では、新隊舎及びヘリ格納庫を重点的に視察され、新配備を受けたCH-47の運用及び主要諸元等、並びに管制気象情報処理装置について確認された。

また、第3飛行隊長は、3月28日(水)、島根県隠岐の島で発生した林野火災につ



空中消火器材バンビバケットの説明(美保分屯地)

いて説明し、新編されて間もない第3飛行隊がCH-47×2機を運用して、放水を22回(およそ11万リットル)実施し、被害を最小限にとどめた経緯について説明した。  
引き続き行われた出雲駐屯地視察では、中谷駐屯地司令が駐屯地の歴史・沿革等について状況報告を実施するとともに、駐屯地に展開する航空自衛隊の配置位置について担当者が説明。隊員の宿泊する施設等を巡回され、長期勤務に邁進する隊員を激励して頂き視察は終了した。

## 30年度 隊務始動の部隊を視察

方面総監(岸川陸将)は、4月6日(出雲駐屯地)、13日(今津駐屯地)、17日(島根地本)、23日(姫路駐屯地)をそれぞれ視察した。  
視察間、各指揮官及び隊員に対し、統率方針「任務の完遂」について徹底するとともに「常に生々躍動し、日々の訓練に励んでもらいたい」と述べ、島根地方協力本部松江募集事務所では、広報官一人一人を激励しながら握手を交わした。



## 各駐屯地 満開の桜並木を一般開放

中部方面隊の各駐屯地は桜の開花に伴い、地域住民との一体感を醸成するため、週末に駐屯地の一般開放及び各種行事等を行った。  
イベント広場では、サークル活動などの発表や音楽隊等による演奏披露及び子供広場など趣向を凝らした行事運営のもと、春の陽気に包まれ多くの来場者が花見を楽しんだ。



桜まつり(海田市駐屯地)

「毎年、家族で花見に来るのを楽しみにしています。出店も色々あって子供達にとっても喜んでいます」と述べた。

## 入学した予科生40名の宝塚音楽学校 隊内生活体験

中部方面通信群(群的事項を体験させ、団体生活に不可欠な協調心を養うことが目的。教官は全地において、4月17日に宝塚音楽学校に入学した第106期生40人の新入生(予科生)に対する生活体験を支援した。  
毎年、この時期に行われる生活体験は、入学した間もない予科生に、自衛隊における基礎

※宝塚音楽学校は2年制の学校。1年生は予科生、2年生は本科生という。



記念撮影

# 千里眼

## 「ポトマック川の桜」と「里帰り桜」

米国の首都ワシントンDCの中心部を流れるポトマック川岸には、春になると二千本もの桜が一斉に開花し、日米友好の証である桜のアーケードが出現する。ポトマック川の桜は日本から贈られて、2018年で106年目を迎え、桜の開花に合わせ1961年から開催されている全米桜祭り (Cherry Blossom Festival) はいまや多くの地元民、観光客が訪れ、毎年70万人以上が参加するビッグ・イベントとなっている。

また「全米桜祭り」の一環として在米日本大使館やワシントン日米協会などが主催している「さくらまつり」も、言うまでもなくアメリカ最大の日本文化祭となり、地元根付いているが、このポトマック川の桜は、実は中部方面総監部が所在する兵庫県伊丹市で育った苗木を移植したもので、大東亜戦争ですら切り倒されることもなく、現在に至っている。

日本から桜がワシントンに贈られてから90周年に当たる2003年には、ワシントンの桜の苗木がその記念として伊丹市に贈呈され、伊丹駐屯地正門から約1kmに位置する瑞ヶ池公園南端に「里帰り桜」として植えられ、現在も日米友好を祈念し元気に成長し続けている。



ポトマック川の桜 (ワシントン)



里帰り桜 (伊丹市瑞ヶ池公園)

## 春日井駐屯地業務隊

春日井駐屯地業務隊は、平成26年度から関係部外団体と協力した家族支援態勢を構築するため、愛知県家族会(以下「家族会」という。)と連携を図っている。

平成29年9月、業務隊は駐屯地所属全隊員を体育館に集め、家族支援施策の説明を行い、施策の周知に努めた。

また、9月と12月には駐屯地近傍地域の9家族会支部代表へ家族支援施策説明会を実施し、施策への理解の促進を図るとともに相互の連携を深め、家族会及び業務隊双方の地位・役割、細部業務等の実施要領について「実務要綱」を作成して、施策のより一層の進捗を図った。

## ふぁみさぼ通信 (連載: 第17回)

3月には「実務要綱」で定めた「定期協議会」を開催し、平成30年度末の安否確認態勢完了に向けた連携の強化及び隊員と家族会会員との顔合わせ要領について話し合いを行った。

今後は隊員と家族会会員との顔合わせを推進し、更なる家族支援態勢の確立に努めていきたい。



家族支援施策定期協議会の様子

## CSMの提言

### 「声掛け」



第3師団最先任上級曹長 (千僧駐屯地) 准陸尉 ながれゆうじ 永禮勇治

私も50歳になりますが、この年齢になっても人に褒められれば嬉しいものです。人間はちよつとした一言で傷ついたり救われたりするものです。「関心がある、認めてもらっている」等と感じる言葉なら、より嬉しいですね。どうすれば相手に伝わるか。私心がけていることについて述べさせていただきます。

まずは、笑顔で明るく声掛けをすること、「○○土」等と氏階級で呼ぶこと、その人に応じた内容の声掛けをすること、目立たずコツコツとやっている隊員に声掛けをすること、後ではなく、感じたその時に声掛けをすること、最も大事なのが「関心」を持つことです。

隊員は宝です。隊員が汗を流す姿、真摯な姿を目にするたびに、誇りに思います。決して不幸にしてはならない。常日頃、隊員のやる気を引き出し自分の仕事がいかに大事な仕事なのかを教えなければなりません。心のこもった声掛けが重要です。「ちよつとした励ましの一言が隊員を救う」。ただし、ただ褒めればいいのではない。時には愛情のある厳しい言葉も必要でしょう。

「今、シグナルを出している隊員がいる」関心を持って、これからも私のモットーである「笑顔無敵」で明るく、爽やかに今日も現場に出て多くの隊員へ声掛けをしてまいります。

## 地本のチカラ

### 連載第6回: 三重地本

「三重県知事が固い握手 (One Team)」

三重地方協力本部(本部長 鹿子島1佐)は、3月17日(土)に三重県総合文化センターで開催された自衛隊協力3団体が主催する自衛隊入隊・入校予定者激励会を支援した。

激励会には、来賓、入隊・入校予定者の家族等、約750名が参加し、今春から自衛隊に入隊・入校した約150名を激励した。

激励会は2部構成で実施し、第1部の式典では、入隊・入校予定者がスクリーンに映し出された紹介プロフィールとともに順次登場し、鈴木英敬三重県知事が一人ひとりと握手を交わし熱いエールを送った。

その後、各来賓の祝辞、防衛大臣の激励メッセージ、主催団体からの激励品の贈呈等があり、入隊・入校予定者や家族らは感動に満ちていた。

第2部の激励行事では、豊川駐屯地三河陣太鼓、第33普通科連隊らっば隊、三重大学応援団及び海自舞鶴音楽隊による応援や演奏で参加者全員がひとつになり、輝かしい門出を祝福した。

最後に入隊・入校予定者代表として謝辞を述べた航空自衛隊一般幹部候補生の前田晴香さんは「皆様からの熱いエールに感謝し、期待に応えられるよう頑張ります」と力強く決意した。



知事と握手を交わす入隊予定者